

会 議 録

会議名 (審議会等名)	(仮称) 新・産業振興ビジョン策定委員会		
事務局 (担当課)	産業政策課 電話042-769-8237 (直通)		
開催日時	平成26年12月18日(木) 午前10時～12時		
開催場所	市立産業会館4階 国際商談室		
出席者	委員	10人(別紙のとおり)	
	その他	—	
	事務局	10人(産業政策課長、商業観光課長、他8人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 第1回策定委員会の報告事項 (2) 相模原市の産業の現状と課題 (3) 相模原市内・市外事業者向けアンケート・ヒアリング結果 (4) 相模原市産業のSWOT分析～相模原市の産業振興の方向性 (5) ビジョンの体系等 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開 会

事務局の進行により開会した。

2 議題（○は委員の発言、●は事務局の発言）

飯島委員長の進行により議事に入った。

（1）第1回策定委員会の報告事項

事務局から、第1回策定委員会の報告事項である、本市の不動産業の現状及び海外の都市事例について説明を行った。

（2）相模原市の産業の現状と課題

事務局から、本市の産業の現状と課題について、第1回策定委員会後に追加及び変更した部分について説明を行った。

○相模原市の産業は、製造業のウエイトが相対的に高いが、これからサービス業関連にも力を入れなくてはならない状況にある。そういうことを考えた時に観光との連携、相模原がどういうまちなのかあまりわからない問題がある。観光業が盛んになってくるとまちのPR度というのは全然違ってくる。

○工業関係は比較的大きな企業が集積しているが、1社に依存するような構造ではなく、ある程度大きな企業が複数あるため、安定的に形成されている。反面、集積度が異常に高いわけではないため、牽引していく企業をいかに増やすかが課題である。

○生産性が決して高くないのが少し問題である。そのため、ロボット産業、知的技術の集積を図ることも必要である。

○商業・サービス関係は、買い物弱者問題を考えるとまちの構造をコンパクトシティ化させる、あるいは、消費者寄りのサービス業を充実させていくことも必要である。また、市外からの流入者を増強させるような施策が必要である。

○商業振興に関しては、相模大野、相模原、橋本など拠点ごとに施策を考える必要がある。そこでは、小田急多摩線延伸、リニア中央新幹線、相模総合補給廠の一部返還との連携を進めなくてはならない。

（3）相模原市内・市外事業者向けアンケート・ヒアリング結果

事務局から、アンケート、ヒアリング結果について説明を行った。

○ヒアリング結果の行政に対する施策ニーズの中に、地元で買う運動と地元で買うことを評価する仕組みづくりとあるが、是非取り組んでいただき、地元を活かし

ていただきたい。

- 市に求める支援策に、設備投資への支援が最も多く挙げられているが、単に施設を新しくして生産性を上げるだけでなく、都市として必要な機能、例えばバリアフリーをするために設備投資する場合には支援するというのも良いのでは。
- ファンドを作る場合には、市としてどういうまちづくりをしたいのかを考慮した上でファンドを創設する必要がある。
- 人材不足については、新規雇用と現状いる社員の再教育について2通りの不足があると思うが、調査上はどうだったのか？
- 人材確保と育成施策の課題についてアンケートでは聞いており、結果は、「求めるレベルの人材がない」が一番多く 57.2%、「応募者が集まらない」が二番目に多く 43.3%であった。
- 産学連携は、きっかけ作りが重要で、市が仲介に入ると進むのでは。
- 商工会議所の会員企業からも、いわゆる理工系人材の確保が難しいと言われている。ものづくりに従事する理工系の学生の確保をどうするかは、基幹産業を将来的に維持拡大していくためにも必要である。
- 製品を開発してもデザインが良くないと、製品そのものが高機能であっても売れない。デザインの分野などでも産学連携が広がるとよいので、その仲介役があるとよい。

(4) 相模原市産業のSWOT分析～相模原市の産業振興の方向性～

事務局から、産業のSWOT分析、相模原市の産業振興の方向性について説明を行った。

- 色々分析してあるが、時間軸の部分で例えば向こう10年間でどの程度やるのかなど、時間軸をどこかに盛り込みスケールとする必要があるのでは。段階を追って、どこに序列をつけるか、明日何をしていくかが重要だと思う。
- 今回は全体的に課題に対して、どう対応するかという観点で網羅的にキーワードを出した。ビジョンとして整理していく上では特に時間軸の整理は必要になってくるため、今後検討し提示したい。
- 今回の資料の中には医療はなく、生活支援などの部分との関係が記載されているのみである。これからは未病などがキーワードになってくる。それを産業の中に取り入れることも良い。
- 医療も個人に対するサービス業の1つかと思う。今後拡大が期待でき、外国人向けサービス、未病の対策、医療サービスなどが重要となってくる。高齢化していくことが喫緊の課題なので、医療産業、病院も含めた産業化を少し考える必要があるかもしれない。
- 相模原市はオフィス系企業、業務系企業が他の政令指定都市と比較して少ない状

況にあり、対企業向けのサービス業が少ないと様々なところで指摘されている。弱みと機会の交差するあたりにオフィス系企業の誘致を入れておいた方がいいと思う。

- 緑区は人口が減少していくエリア、それから自然を持っているエリアのモデルケースとなる。リニア新幹線の駅のモデルケース、広域交流拠点都市のモデルケースもできる。昼夜間人口比率が全国の政令指定都市の中で最低ということを決済することができるモデルもある。色々なチャレンジのできる都市を目指すべきだと思う。
- 旧津久井四町と、旧相模原市とでは全然違い、本市には多種多様な状況があって、それぞれ良いところが沢山あると思うが、そういうところを積み上げると、全体としてはセールスポイントや方向性が非常に見えづらくなる。時間軸、場所など、もう少し見えやすいような形で落とし込まないといけない。資料では、それぞれの方向性の中で項目が出ているが、メリハリ、重点項目がない。また、一つを重点項目としてしまうとその他の項目を比べて非常に差がありすぎるという部分がある。目指すべき方向性では、ある程度メリハリをつけてやっていかないと非常に分かりづらいのではと思う。
- 色々なものを詰め込んでしまうと、相模原市がどんなまちかという答えがなくなってしまふ。その意味では、経済版のシティセールス計画として、ポイントを1個に絞ってしまふが良いと思う。そういう方向にこの産業振興ビジョンがなれば良いと思う。
- この産業振興ビジョンを見ればシティセールスになるような形が必要。今日出てきたことを踏まえて少し整理していただきたい。

(5) ビジョンの体系等

事務局から、ビジョンの体系等について説明を行った。

- ロボット、ロボットテクノロジーの社会実装、地域のロボット化というキーワードが出ている。相模原には、特に突出する産業はなく、色々な産業があるが、それがロボットの特徴に通じている。ロボットの性質は統合である。違うものを組み合わせる新しい価値を作ることが大きな特徴である。そういう意味では、色々な産業があるということは、ロボットにとってとても良いポテンシャルを持っている地域であると言える。
- 生産性が低いことについても、ロボットにとっての重要な分野であり、自動化を含めて人手不足を補いながらワークシェアをして生産性を上げることができる。製造業、食品、物流、生活、医療、福祉等多岐にわたり貢献することができると思っている。
- 5月6日に安倍首相がロボット革命宣言をされてから各省庁が色々とロボット関

連の予算要求をしている。経産省でも新しいロボットの用途の開拓ということで予算要求しているので、ぜひそれをうまく使って相模原をロボットテクノロジーの社会実装のモデル地域の1つにしてもらいたいと思っている。

- 地域連携の部分を入れていくべきだと思う。例えば農業、観光、工業、商業・サービスというのは、これは従来のものの考え方だが、医療の問題も含めて考えるべきである。
- 産業振興ビジョンは都市の進んでいく方向を示していることでもあるので、産業政策の今後10年間の形というよりは、もう少し相模原市自身がどう力を付け、どう伸びていこうかという指針にならないと本当の産業振興ビジョンにならないと思う。シティセールスに関して、今後商業等の成功を導き出すためにも重要である。産業が強くなることでそれがシティセールスにとって非常に重要だというご意見をいただいているので、ぜひ今後、盛り込んで頂ければと思う。シティセールス推進課の参加は難しいのか。
- 観光と密接につながっているセクションであり、事務局内で調整を行ない、事務局のオブザーバーとして参加してもらう事を検討する。
- 農業の部分が何も入っていないが、おそらく都市農業などの独自産業系のものを出していく必要がある。あるいは加工に注目するのも良い。生活サービスとの関わりを考えていくことが相模原市の農業振興において重要だ。その辺の対応についてここからどうしていくのか。
- 農業の分野については、農業振興ビジョンを策定中であり、産業振興ビジョンと連携させる予定である。6次産業化なども取り込む予定である。
- ロボットについては色々な企業が集まって試作等が可能になると良い。例えば、誰でも相談に来られるような場所があるといいと思っている。また、せっかくJAXAもあるので生かすべきである。インキュベーションセンターというと、入居企業に対する支援施設というイメージが強いが、交流拠点となるような場を作り、支援をお願いしたいと思う。
- キーワードに「女性の活躍」ということが出ており、自分の仕事でもテーマにして動いているが、やはり中心の重点施策みたいなものが決まってから、その中で女性の活躍について今後議論していければ良いと考えている。

6 その他

事務局から次回日程に関する事務連絡を行った。

- ・平成27年2月10日（火）午前10時から

(仮称) 新・産業振興ビジョン策定委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	飯島 泰裕	青山学院大学社会情報学部 教授	委員長	出席
2	上野 賢美	(株) 共立代表取締役		出席
3	浦上 裕史	(社) 相模原市商店連合会 代表理事		出席
4	上山 雅子	公募委員		出席
5	佐藤 知正	東京大学 名誉教授	副委員長	出席
6	杉岡 芳樹	相模原商工会議所 会頭	代理出席	出席
7	奈良 哲弥	津久井商工会 商業部会長		出席
8	最住 悦子	公募委員		出席
9	若生 ひとみ	ルビーデザイン 代表		出席
10	渡邊 博樹	(株) 日本政策金融公庫厚木支店 支店長		出席

(50音順 敬称略)